

親子でいっしょに 読み聞かせ

読み聞かせは、絵本や本を子どもに読んで聞かせ、幼い子どもたちがおはなしの楽しさを感じるひとときです。子どもの情緒や想像力を育て、ことばを覚える機会にもなります。親にとっても子どものすてきな表情を通して子育ての楽しさを感じるひとときです。



なにをして遊ぼうかな〜と迷うときでも、絵本があれば会話がはずみます。

親子で楽しい時間を過ごしていますか

テレビ・DVDなどの映像メディアと親の語りかけには違いがあります。テレビなどは子どもの興味・関心に関係なく一方的にうつされますが、読み聞かせはその子のペースで見たり、会話をしたりしながら読み進めることができます。



テレビなどは、できるだけいっしょに見て会話をしましょう。



同じ本をいっしょに見ることを楽しみましょう。

家族のふれあいの時間を持とう

子どもはどんどん成長します。絵本やうたを子どもと楽しめる時間を大切にしましょう。



読み聞かせやうたは、子育て中の楽しい時間です。



ふれあいの時間は、
子どもの家族への
信頼を深めます。

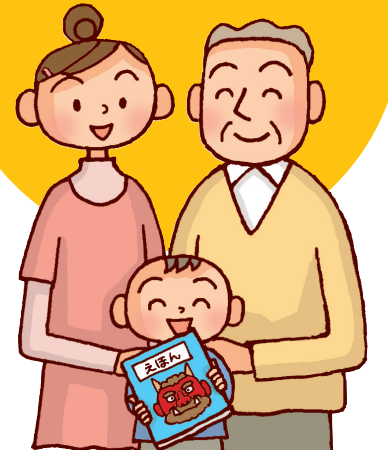
こころとことばを育てる

ことばを学ぶことで考える力が育ち、人にかかわろうとする気持ちも育ちます。



▲読み聞かせによって脳の感情をつかさどる部分が活動しています。※
※泰羅雅登、2009 調査

読み聞かせは、
ことばだけではなく
こころも豊かに育てます。



暮らしの中で ことばを楽しむ 遊びを取り入れよう

子どものこころとことばの成長には、こころに届く大人からのあたたかな語りかけが必要です。そんなにむずかしいことはありません。暮らしの中で絵本の読み聞かせや、うたを歌うなど、ことばを楽しむ遊びを取り入れてみませんか。



お父さんも子どもとふれあうきっかけにしてみては？



読書の効果 ～小学生時代の体験をふり返って

山形県鶴岡市在住の佐藤響くん(16)は、四人兄弟の長男で現在高校生です。小学校の頃から、単身赴任中のお父さんにかわって絵本の読み聞かせをしていました。



現在高校生の響くん(左から2人目)

響くんは「小さい頃は、絵本やおはなしから頭の中に浮かんでくる想像の世界がおもしろかったけど、今は本を読むことで、いろいろな見方や考え方がわかり、自分の思いや意見が出てくるのが楽しいです」と話しており、すっかり読書好きです。

今でも響くんが読み聞かせをすると、みんな集まって聞き入っています。



当時小学校4年生の響くん(左から2人目)